



認定看護師便り

2016年1月発行 Vol.54

あけましておめでとうございます

今年もみなさまの健康と御多幸をお祈りしております

育てよう、赤ちゃんの脳とこころ

生まれてきた赤ちゃんの脳は、いろいろな環境の刺激や自らの経験から、成長発達します。なかでも情緒や人間らしさをつかさどる大脳新皮質は、在胎 20 週以降急速に発達し、青年後期まで続きます。

胎児の脳は、あたたかでやさしい子宮内の環境で育まれ成長します。そして胎児は、子宮を通して聞こえてくる生活の音や声を聞くことが、愛着形成や言葉の学習の機会になっています。

おなかの中にいる胎児に、やさしく声をかけることは、成長発達のために欠かせない大切な刺激となります。



しかし、早産で出生すると、子宮内で経験するはずのやわらかな刺激は減り、子宮内では経験することのない強い刺激（痛みの刺激、まぶしすぎる光や騒音、皮膚への刺激など）を受けます。それは生まれたての赤ちゃんには経験したことのない大きなストレスになります。NICU では、不適切な刺激を避け、痛みの緩和などを行いながら、適切な成長発達へとつながるような環境調整に取り組んでいます。

お父さん、お母さん、NICU にお越しの際は、どうぞ、優しくそっと赤ちゃんに触れてあげてください、優しく声をかけてあげてください。それは、子宮内で感じていたやさしい癒しです。あたたかな手とやさしい声で、赤ちゃんの脳とこころを育てましょう。



周産期スタッフがサポートさせていただきます。

写真の使用はご家族の了承を得ています